

進路だより

♡ ACT9 ♡



あれこれ考え行動しないよりも、まずは行動するのだ。人に背中を押されるのを待っているようでは他人の決断に左右されていることになる。失敗は誰にでもある。それが何だというのだ。誰だって同じではないか。

令和6年12月2日

弘前南高等学校
進路指導部



時は加速していきます。大学入試における総合型選抜・学校推薦型選抜はピークを過ぎて、次に受験生を待ち受けるのは、大学入学共通テスト(令和7年1月18日、19日)になります。本校では207名が受験します。

今さらながら評定平均

高校入試の際の「内申書」はみなさんよく知っているのではないのでしょうか。中学校から高校へ提出される書類です。大学入試においては高校から受験先に「調査書」が提出されます。調査書に記載される主な項目は次のとおりです。

- ・各教科・科目等の学習の記録(評定)
- ・各教科の学習成績の状況(評定平均)
- ・学習成績概評
- ・総合的な探究の時間の記録
- ・特別活動の記録
- ・指導上参考となる諸事項
- ・出欠の記録

総合型選抜・学校推薦型選抜においてはこの調査書が重要であることは今さら言うまでもありません。志望校について研究している人は出願条件に評定平均が示されているのを見たことがあるはずです。「評定平均4.0以上」「評定平均 A」などなど。評定平均と学習成績概評は次のように定められています。

(評定平均は小数点以下第2位を四捨五入します)

全体の学習成績の状況	学習成績概評
5.0 ~ 4.3	A
4.2 ~ 3.5	B
3.4 ~ 2.7	C
2.6 ~ 1.9	D
1.8 以下	E

さて、ここでは評定平均の求め方を確認しておきます。評定平均は全ての評定の和を科目数で割ることによって求められます。

例えば1年次の成績が次のようであったとします。

現代国語	言語文化	地理総合	歴史総合	数学Ⅰ	数学Ⅱ	数学Ⅲ	化学基礎	生物基礎	体育	保健	音楽	コミュニケーション	論理表現	情報
4	4	5	4	5	5	4	3	5	4	3	3	5	5	3

この場合、評定の総和は62であり科目数は15ですから評定平均は $62 \div 15 = 4.133\dots$ となり4.1です。

さらに2年次の成績について

論理国語	古典探究	公共	数学Ⅱ	数学Ⅲ	化学	物理基礎	物理	体育	保健	コミュニケーション	論理表現	家庭基礎
4	4	4	5	5	3	4	5	5	4	4	5	5

今度は評定の総和は62であり科目数は14ですから評定平均は $62 \div 14 = 4.428\dots$ すなわち4.4となります。したがって、2年次までのトータルでの評定平均は $(62+62) \div (15+14) = 4.275\dots$ であり4.3となります。

受験の際には3年次の成績も入るのですが、通常総合型・学校推薦型は2学期の出願になりますから、3年次については1学期の評定を使うことになります。そういう意味でも3年次の1学期の成績は非常に重要になるのです。

評定平均は1年次からの全ての科目の成績で決まりますから教科によって手を抜くなどという発想は厳禁です。実際、例年評定平均が足りないという理由で志望校に出願できない生徒も出ているのです。

1、2年生に告げます。本来であれば、進路についての情報収集も進み、目的を持って学習に取り組むべき時期に入っているはずです。しかし、進路希望調査の結果と学習状況調査の結果が、あまりにもかけ離れています。希望に対して学習量がまったく追いついていないのです。今一度自らの進路について真剣に見つめ直すことが必要です。

私たちの人生は「長期的な意味」と「短期的な楽しみ」のバランスの上に成り立っています。どんなにつらくても、長期的に見てそれが自分にとって必要なのであれば、優先して取り組まなくてはなりません。今こそ決断の時です。



ねえねえ、3年生になったら勉強がんばろうと思うんだけど、今のうちからそんなこと考えてるなんてちょっと気合い入れすぎかな。他の人たちは、なんにも考えてないみたいなんだ。えらいでしょ。



パンダくんさ、どんな友だちと戯れてるの？ その考え方、完全に間違ってるよ。パンダくんグループはそうかもしれないけど、頑張ってる人はなんにも言わずに今も必死に頑張ってるんだよ。気づいてないのはパンダくんだけじゃないみたいだけど...

本校においても、時に道徳的に問題視されるような出来事が起きます。先日の食堂に関わる出来事は、私たちの所属する共同体の問題として、決して見過ごして良いものではないはずです。



帰属意識を問う

体育大会、南高祭、運動会など学校行事にはクラスの連帯感を高めるものがたくさんあります。当然のことながら、誰もが自分のクラスを応援したのではないでしょう。

私たちはある集団に所属すると、不思議とその集団を応援しているものです。たとえば、何かの国際大会を見た時には、その出場選手がどんな人なのか分からなくても、私たちは日本チームを応援しているものです。そして、日本人が活躍するような場面を見ると、なぜか誇らしく思うのです。

もっと身近な例として、私たちは「南高」を応援します。部活動等いろいろな場面で「南高」が取り上げられると、私たちは仲間の活躍をうれしく思い、その姿を誇りに思ったはず。

ということなのか。それは、私たちが同じ共同体に属しているということです。これを「帰属意識」と呼びます。自らがその共同体の一員であることを自覚しているのです。みなさんが学校行事等で自分のクラスを全力で応援した、もしくはクラスのために全力で取り組んだのだとしたら、あなたは立派な

クラスの一員であったということです。

時にわれわれ教員は、あなたたち生徒に対して南高生としての自覚を促すことがあります。何気なく聞いている人もいるかもしれませんが、そこには強烈なメッセージが込められています。

帰属には責任が伴うのです。私たちは所属する共同体を誇りに思うのと同じように、その共同体に対して責任を持たなくてはならないのです。

誰かの成功を誇りに思うのであれば、誰かの過ちでさえも、自らも関係があることとして受け止め、今後どのようにしていくべきかを真剣に考えなくてはならないのです。自分の所属する集団の自慢話には花を咲かせるが、不名誉なことがあったときには、「自分には関係ない」では、本当の意味でその集団の一員であることにはならないのです。

改めて問います。私たちの共同体「弘前南高校」への帰属意識はそこにありますか。みなさんは一人残らず「南高」の一員です。誇りと勇気と責任を持ち、これからも共に歩み続けることを願います。



尊重されるべき存在

あなたたちが生まれてくるとき、おそらく家族の人たちは思ったはず。

何より健康であって欲しい

それ以上、何も望まない

あなたが初めて立ち上がったとき、あなたが初めて言葉を口にしたとき、あなたの成長は家族の感動の積み重ねであったはず。そして今、高校生のあなたがここにいるのです。

私たちには決して忘れてはならない真実があります。それは「誰もが尊重されるべき存在である」ということです。

あなたはあなたの家族に尊重されています。それは、あなたが何ができるからとか、何をしたからとかそんな理由からではなく、ただそこにいるから尊いのです。その存在だけで、あなたは家族を幸せにしているのです。あなたが日々充実した毎日を送っているだけで、家族は喜びを感じるのです。

自分の周りの人たちを見つめたとき、私たちには気づかなくてはならないことがあります。それは、誰にでも同じような“ものがたり”があるということです。誰にでも、家族に支えられ平和な毎日を過ごす権利があるということです。

たとえ日々の生活の中で、他人との^{いさか}争い、衝突があったとしても、私たちには誰一人として他人の人間性を踏みにじる権利など無いのです。それどころか、他者を尊重することは私たち人間に課せられた義務でもあるのです。

人間には他者と関わる際に二つのタイプがあるようです。「周りを支援したい人」と「周りを支配したい人」人間関係を壊していくのは当然後者です。私たちは、力づくで相手を言いなりにしてしまうような人間になってはならないのです。

われわれ教員があなたたち高校生に、本当に望むことは“精神的な成熟”です。どんな社会に生きたいのか。どんな社会の一員でありたいのか。その答えの先に、はじめて進路目標は存在するのです。

誇りを持って 胸を張れ 前へ進め 南高生！

あのね、チキンちゃん。受験で不合格になって泣いてる人がいた。どうしよう。



ぴよちゃん、人は傷付くことでまた一つ何かをつかみ取ることができるんだよ。心に負った強烈な痛みはなかなか消えないけれど、それがその人の「優しさの源」になっていくんだ。つらい経験は人を強くするって言うでしょ。「強さ」とは、きっと「優しさ」のことなんだよ。